■オーストラリア：電気料金が最大12%上昇、炭素税導入の影響

現地メディアは2014年1月8日、2012/13年度の電気料金が前年度比12%上昇したと報じた。オーストラリアエネルギー規制局（AER）は、前労働党政権が2012年7月に導入した炭素価格制度（炭素税）の影響としている。それによると、電気料金が最も上昇したのは首都圏特別区（ACT）で平均料金は前年度比12%増、以下クイーンズランド州が同9%増、ビクトリア州が同8%増、ニューサウスウェールズ州が同7%増、となった。一方、南オーストラリア州は同4%増、タスマニア州が同3%増など、再生可能エネルギーによる発電の割合が大きい地域は炭素税の影響が小さく、値上げ幅も小さかった。